

Galeries

一房の葡萄

氏名 (

)

僕は小さい時に絵を描くことが好きでした。僕の通っていた学校は横浜の山の手という所にありましたが、そこいらは西洋人ばかり住んでいる町で、僕の学校も教師は西洋人ばかりでした。そしてその学校の行きかえりにはいつでもホテルや西洋人の会社などがならんでいる海岸の通りを通るのでした。通りの海添いに立って見ると、真青な海の上に軍艦だの商船だのが一ぱいならんでいて、煙突から煙の出ているのや、橋から橋へ万国旗をかけたわたしたのやがあつて、眼がいたいように綺麗でした。僕はよく岸に立って①その景色を見渡して、家に帰ると、覚えていられるだけを出来るだけ美しく絵に描いて見ようとしました。けれどもあの透きとおるような海の藍色と、白い帆前船などの水際近くに塗ってある洋紅色とは、僕の持っている絵具ではどうしてもうまく出せませんでした。いくら描いても描いても本当の景色で見ると、色には描けませんでした。

ふと僕は②学校の友達の持っている西洋絵具を思い出しました。その友達は矢張西洋人で、しかも僕より二つ位年齢が上でしたから、身長は見上げるように大きい子でした。ジムというその子の持っている絵具は舶来の上等のもので、軽い木の箱の中に、十二種の絵具が小さな墨のように四角な形にかためられて、二列にならんでいました。どの色も美しかったが、③とりわけて藍と洋紅とは喫驚するほど美しいものでした。ジムは僕より身長が高くせに、絵はずっと下手でした。それでもその絵具をぬると、下手な絵さえがなんだか見ちがえるように美しく見えるのです。僕はいつでも④それを羨しいと思っていました。あんな絵具さえあれば僕だって海の景色を本当に海に見えるように描いて見せるのになあと、自分の悪い絵具を恨みながら考えました。そうしたら、その日からジムの絵具がほしくってほしくってたまらなくなりました。(5)

僕は⑥なんだか臆病になつて、パパにもママにも買って下さいと願う気になれないので、毎日々々その絵具のことを心の中で思いつづけるばかりで幾日か日がたちました。

問一 ―― ①とありますが、「その景色」の中にあるものとしてあてはまらないものをア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 船 イ 学校 ウ 万国旗 エ 煙突

問二 ―― ②とありますが、「学校の友達」の名前を文中から探し、書きぬきなさい。

問三 ―― ③とありますが、どういうことですか。もっともふさわしいものをア～ウから選び、

記号で答えなさい。

ア 中でも特別に

イ 分けてもらいたいくらいに

ウ びっくりするほどに

問四 ―― ④とありますが、何のことですか。もっともふさわしいものをア～ウから選び、記号で答えなさい。

ア 僕より年上で身長が高いこと。

イ 下手な絵でも美しく見えること。

ウ 美しい海の絵が描けること。

問五 (5) にあてはまる言葉としてもっともふさわしいものをア～ウから選び、記号で答えなさい。

ア だから イ けれども ウ つまり

問六 ―― ⑥とありますが、どういうことですか。

ア 絵具をほしいと思いがらも、買ってほしいと言いつせないこと。

イ 海の景色を思うように描くことのできない自分の絵具を恨むこと。

ウ 絵具を買ってもらってもどうせ自分は海の景色を描けないと思うこと。

今ではいつの頃ころだったか覚えてはいませんが（1）だったのでしよう。葡萄ぶどうの実が熟していたのですから。天気は冬が来る前の（1）によくあるように空の奥の奥まで見すかされそうに霽はれわたった日でした。僕は先生と一緒に弁当をたべましたが、その楽しみな弁当の最中でも僕の心はなんだか落着かないで、その日の空とはうらはらに暗かったのです。僕は自分一人で考えこんでいました。誰たれかが気がついて見たら、顔も屹度きつと青かったかも知れません。僕はジムの絵具がほしくってほしくってたまらなくなってしまうのです。胸が痛むほどほしくなってしまうのです。ジムは②僕の胸の中で考えていることを知っているにちがいないと思つて、そつとその顔を見ると、ジムはなんにも知らないように、面白そうに笑ったりして、わきに坐すわっている生徒はなしと話はなしをしているのです。でもその笑っているのが僕のことを知っていて笑っているようにも思えるし、何か話はなしをしているのが、「いまに見ろ、あの日本人が僕の絵具を取るにちがいないから。」といっているようにも思えるのです。僕はいやな気持ちになりました。けれどもジムが僕を（3）ように見えれば見えるほど、僕はその絵具がほしくてならなくなるのです。

二

僕はかわいい顔はしていたかも知れないが体からだも心も弱い子でした。（4）臆病おくびょうもの者で、言いたいことも言わずにすますような質たちでした。（5）あんまり人からは、かわいがられなかったし、友達もない方でした。昼御飯ひるめしがすむと他ほかの子供達は活潑かつぱつに運動場うんどうばに出て走りまわつて遊びはじめましたが、僕だけはなおさらその日は変に心が沈んで、一人だけ教場きょうじょうに這入はいっていました。そとが明るいだけに教場の中は暗くなって僕の心の中のような感じでした。自分の席すわに坐すわっているながら僕の眼は時々ジムの卓テイブルの方に走りまわりました。ナイフで色々ないたずら書きが彫りつけてあつて、⑥手垢てあかで真黒まっくろになつているあの蓋ふたを揚げると、その中に本や雑記帳せきばんや石板せきばんと一緒にあつて、飴あめのような木の色の絵具箱があるんだ。そしてその箱の中には小さい墨すみのような形をした藍や洋紅の絵具が……僕は顔が赤くなったような気がして、思わずそっぽを向いてしまうのです。けれどもすぐ又横眼またでジムの卓テイブルの方を見ないではいられません。⑦胸むねのところところがどきどきとして苦しい程ほどでした。じつと坐すわっているながら夢で鬼にでも追いかけられた時のように気ばかりせかせかしていました。

問一 (1) にあてはまる季節はいつですか。漢字一字で答えなさい。

問二 —— ②とありますが、どういうことですか。もっともふさわしいものをア～ウから選び、記号で答えなさい。

ア 弁当が楽しみでたまらないこと。

イ ジムの絵具をほしくてたまらないこと。

ウ 胸が痛くてたまらないこと。

問三 (3) にあてはまる言葉としてもっともふさわしいものをア～ウから選び、記号で答えなさい。

ア 疑っている

イ 信じている

ウ だましている

問四 (4) (5) にあてはまる言葉としてもっともふさわしいものをそれぞれア～エから選び、記号で答えなさい。

ア なぜなら イ だから ウ すると エ その上

問五 —— ⑥とありますが、何の蓋ですか。文中から探し、四字で書きぬきなさい。

問六 —— ⑦とありますが、なぜですか。もっともふさわしくないものをア～ウから選び、記号で答えなさい。

ア ジムの絵具がすぐ近くにあると思うと心が落ち着かないから。

イ ジムの絵具のある場所をつい見ってしまう自分が恥ずかしいから。

ウ 夢の中で鬼に追いかけられているのであせっているから。

教場に這入る鐘がかんかんとう鳴りました。僕は思わずぎよっとして立上りました。生徒達が大きな声で笑ったりり囁鳴ったりしながら、洗面所の方に手を洗いにしかけて行くのが窓から見えました。僕は急に頭の中が氷のように冷たくなるのを気味悪く思いながら、ふらふらとジムの卓タイプルの所に行つて、半分夢のようにその蓋を揚げて見ました。そこには僕が考えていたとおり雑記帳や鉛筆箱とまじつて見覚えのある絵具箱がしまつてありました。なんのためだか知らないが僕はあつちこちを見廻みまわしてから、誰も見ていないなと思うと、手早くその箱の蓋を開けて藍と洋紅との二色ふたいろを取上げるが早いかポケットの中に押込みました。そして急いでいつも整理して先生を待っている所に走つて行きました。

僕達は若い女の先生に連れられて教場に這入り銘々の席に坐りました。僕はジムがどんな顔をしているか見たくつてたまらなかつたけれども、どうしてもそつちの方をふり向くことができませんでした。でも①僕のしたことを誰も気のついた様子がないので、気味が悪いような、安心したような心持ちでいました。僕の大好きな若い女の先生の仰おっしゃることなんかは耳に這入りは這入つてもなんのことだかちつともわかりませんでした。先生も時々不思議そうに僕の方を見ているようでした。

僕は然しかし先生の眼を見るのがその日に限つてなんだかいやでした。そんな風で一時間がたちました。なんだかみんな耳こすりでもしているようだと思ひながら一時間がたちました。

教場を出る鐘が鳴つたので僕は（ 2 ）溜息ためいきをつきました。けれども先生が行つてしまつと、③僕は僕の級きゅうで一番大きな、そしてよく出来る生徒に「ちよつとこつちにお出いで」と肱ひじの所を掴つかまれていました。僕の胸は宿題をなまけたのに先生に名を指さされた時のように、思わずどきんと震えはじめました。けれども僕は出来るだけ知らない振りをしていなければならなうんどうばいと思つて、わざと平気な顔をしたつもりで、仕方なしに運動場の隅すみに連れて行かれました。「君はジムの絵具を持つているだろう。ここに出たまし給え。」

そういつてその生徒は僕の前に大きく拵ひろげた手をつき出しました。そういわれると僕はかえつて心が落着いて、

「④そんなもの、僕持つてやしない。」と、ついでたらめをいつてしまいました。そうすると三四人の友達と一緒に僕の側そばに来ていたジムが、

「僕は昼休みの前にちゃんと絵具箱を調べておいたんだよ。一つも失なくなつてはいなかつたんだよ。（ 5 ）昼休みが済んだら（ 6 ）つ失なくなつていたんだよ。（ 5 ）休みの時間に教場ばにいたのは君だけじゃないか。」と少し言葉を震ふるわしながら言いかえしました。

問一 ― ①とありますが、どういうことですか。もっともふさわしいものをア～ウから選び、記号で答えなさい。

ア ジムの顔を見たいのにふり向くことができないこと。
イ 大好きな先生の仰ることがちっともわからないこと。
ウ 誰も見ていないのでジムの絵具を盗んでしまったこと。

問二 (2) にあてはまる言葉としてもっともふさわしいものをア～ウから選び、記号で答えなさい。

ア ほっと安心して
イ ぎよっと驚いて
ウ むっと苛立って

問三 ― ③とありますが、「僕の級きゅうで一番大きな、そしてよく出来る生徒」が、「僕」の「肱ひじの所を掴つか」んだのは何のためですか。最もふさわしいものをア～ウから選び、記号で答えなさい。

ア 先生の話をほとんど聞いていなかった「僕」を注意するため。
イ 「僕」がジムの絵具を盗んだことを問いつめて取り返すため。
ウ 昼休みに運動場に來なかつた「僕」を誘って一緒に遊ぶため。

問四 ― ④とありますが、何のことですか。文中から探し、五字で書きぬきなさい。

問五 (5) が二か所ありますが、同じ言葉が入ります。(5) にあてはまる言葉としてふさわしいものをア～ウから選び、記号で答えなさい。

ア そして イ また ウ それとも

問六 (6) に入る数字を答えなさい。

僕はもう駄目だと思おうと急に頭の中に血が流れこんで来て顔が真赤になったようでした。すると誰だったかそこに立っていた一人がいきなり①僕のポケットに手をさし込もうとしました。僕は一生懸命にそうはさせまいとしましたけれども、②多勢に無勢で、逆も叶いません。僕のポケットの中からは、見る見るマールブル球（今のビー球の事です）や鉛のメンコなどと一緒に二つの絵具のかたまりが掴み出されてしまいました。「それ見ろ」といわんばかりの顔をして子供達は憎らしそうに僕の顔を睨みつけました。僕の体はひとりでにぶるぶる震えて、眼前が真暗になるようでした。いいお天気なのに、みんな休時間を面白そうに遊び廻っているのに、僕だけは本当に心からしおれてしまいました。③あんなことをなせしてしまっただらう。取りかえしのつかないことになってしまった。もう僕は駄目だ。そんなに思うと弱虫だった僕は淋しく悲しくなつて来て、しくしくと泣き出してしまいました。

「泣いておどかしたつて駄目だよ」とよく出来る大きな子が馬鹿にするような憎みきつたような声で言つて、動くまいとする僕をみんなで寄つてたかつて二階に引張つて行こうとしました。僕は④出来るだけ行くまいとしたけれどもとうとう力まかせに引きずられて階子段を登らせられてしまいました。そこに僕の好きな受持ちの先生の部屋があるので。

やがてその部屋の戸をジムがノックしました。ノックするとは這入つてもいいかと戸をたたくことなのです。中からはやさしく「お這入り」という先生の声が聞こえました。僕はその部屋に這入る時ほどこいやだと思つたことは⑤またとありません。

何か書きものをしていた先生はどやどやと這入つて来た僕達を見ると、少し驚いたようでした。が、女の癖に男のように頸の所でぶつりと切つた髪の毛を右の手で撫であげながら、いつものとおりのやさしい顔をこちらに向けて、一寸首をかしげただけで何の御用という風をしなさいました。そうするとよく出来る大きな子が前に出て、僕がジムの絵具を取つたことを委しく先生に言いつけました。先生は⑥少し曇つた顔付きをして真面目にみんなの顔や、半分泣きかかっている僕の顔を見くらべていなさいましたが、僕に「それは本当ですか。」と聞かれました。本当なだけけれども、僕がそんないやな奴だということをどうしても僕の好きな先生に知られるのがつらかったです。だから僕は答える代りに本当に泣き出してしまいました。

問一 ― ①とありますが、何を探していたのですか。もつともふさわしいものをア～ウから選び、記号で答えなさい。

ア マーブル球 イ 鉛のメンコ ウ 絵具

問二 ― ②とありますが、どういうことですか。もつともふさわしいものをア～ウから選び、記号で答えなさい。

ア 相手の人数のほうが多いので勝ち目がないこと。
イ 相手が強そうなので負けた方がよいと思うこと。
ウ いきおいが強くなったり弱くなったりすること。

問三 ― ③とありますが、この気持ちを表現する言葉はどれですか。ふさわしいものをア～エから二つ選び、記号で答えなさい。

ア 反発 イ 絶望 ウ 後悔 エ 安心

問四 ― ④とありますが、なぜですか。もつともふさわしいものをア～ウから選び、記号で答えなさい。

ア 好きな先生に自分のやったことを知られたくないから。
イ 力まかせに言うことを聞かせられるのがくやしから。
ウ 絵具は返したのだからこれ以上は謝る必要がないから。

問五 ― ⑤とありますが、これを言いかえた表現はどれですか。もつともふさわしいものをア～ウから選び、記号で答えなさい。

ア それほどではなかった。
イ 二度とはなかった。
ウ またあるだろう。

問六 ― ⑥とありますが、なぜですか。もつともふさわしいものをア～ウから選び、記号で答えなさい。

ア 書きものをしていたところを生徒たちにじやまされたから。
イ 「僕」がジムの絵具を取ったのは本当なのかと考えていたから。
ウ 「僕」が泣き出したのでどうしていいか分からなかったから。

先生は暫く僕を見つめていましたが、やがて生徒達に向って静かに「①もういつてもよろこびます。」といって、みんなをかえしてしまわれました。生徒達は②少し物足らなそうにどやどやと下に降りていってしまいました。

先生は少しの間なんとも言わずに、僕の方も向かずに自分の手の爪を見つめていましたが、やがて静かに立って来て、僕の肩の所を抱きすくめるようにして「3」と小さな声で仰いました。僕は返したことをすっかり先生に知ってもらいたいので深々と頷いて見せました。

「あなたは自分のしたことをいやなことだっと思っっていますか。」

もう一度そう先生が静かに仰った時には、僕はもうたまりませんでした。ぶるぶると震えてしかたがない唇を、噛みしめても噛みしめても泣声が出て、眼からは涙がむやみに流れて来るのです。もう先生に抱かれたまま死んでしまいたいような心持ちになってしまいました。

「あなたはもう泣くんじやない。④よく解いたらそれでもいいから泣くのをやめましょう、ね。次ぎの時間には教場に出ないでもよろしいから、⑤私わたくしのこのお部屋に入らっしゃい。静かにしてここに入らっしゃい。私が教場から帰るまでここに入らっしゃいよ。いい。」と仰りながら僕を長椅子に坐らせて、その時また勉強の鐘がなったので、机の上の書物を取り上げて、僕の方を見ていられましたが、二階の窓まで高く這い上った葡萄蔓から、一房の西洋葡萄をもぎ取って、しくしくと泣きつづけていた僕の膝の上にそれをおいて静かに⑥部屋を出て行きなさいました。

問一 ― ①とありますが、どういう意味ですか。もっともふさわしいものをア～ウから選び、記号で答えなさい。

ア もう教場に戻ってもいいですよ。

イ もう家に帰ってもいいですよ。

ウ もう何を言ってもいいですよ。

問二 ― ②とありますが、何について「物足りない」と思っているのですか。もっともふさわしいものをア～ウから選び、記号で答えなさい。

ア 「僕」があまり泣かないことについて。

イ 先生が「僕」を叱らないことについて。

ウ 休み時間がやがて終わることについて。

問三 (3) には先生の言った言葉が入ります。もっともふさわしいものをア～ウから選び、記号で答えなさい。

ア 絵具を盗んだりしていませんね。

イ あなたは本当に悪い生徒です。

ウ 絵具はもう返しましたか。

問四 ― ④とありますが、何がわかったらそれでいいのですか。もっともふさわしいものをア～ウから選び、記号で答えなさい。

ア 自分のしたことが悪いということ。

イ 泣き続けるのはよくないということ。

ウ 絵具はとても高価なものだということ。

問五 ― ⑤とありますが、先生の部屋は何階にありますか。文中から探し、書きぬきなさい。

問六 ― ⑥とありますが、先生は部屋を出てどこに行きましたか。文中から探し、書きぬきなさい。

一時がやがやとやかましかった生徒達はみんな教場に這入って、急にしんとするほどあたりが静かになりました。僕は淋しくって淋しくってしようがない程悲しくなりました。あの好きな先生を苦しめたかと思うと僕は本当に悪いことをしてしまったと思えました。①葡萄などは逆も喰べる気になれないでいつまでも泣いていました。

ふと僕は肩を軽くゆすぶられて眼をさました。僕は先生の部屋でいつの間にか泣寝入りをしていたと見えます。少し痩せて身長の高い先生は笑顔を見せて僕を見おろしていられました。僕は眠ったために気分がよくなって今までであったことは忘れてしまって、少し恥しそうに笑いかけしながら、慌てて膝の上から這り落ちそうになっていた葡萄の房をつまみ上げましたが、すぐ悲しいことを思い出して笑いも何も引込んでしまいました。

「そんなに悲しい顔をしなくてもよろしい。もうみんなは帰ってしまいましたから、あなたはお帰りなさい。(2) 明日はどんなことがあっても学校に来なければいけませんよ。あなたの顔を見ないと私は悲しく思いますよ。屹度ですよ。」

そういつて先生は僕のカバンの中にそと葡萄の房を入れて下さいました。僕はいつものように海岸通りを、海を眺めたり船を眺めたりしながらつまらなく家に帰りました。(2) 葡萄をおいしく喰べてしまいました。

(3) 次の日が来ると僕は中々学校に行く気にはなれませんでした。④お腹が痛くなればよいと思ったり、頭痛がすればよいと思ったりしたけれども、その日に限って虫歯一本痛みもしないのです。仕方なしにいやいやながら家は出ましたが、(5) と考えながら歩きました。どうしても学校の門を這入ることは出来ないように思われたのです。(3) 先生の⑥別れの時の言葉を思い出すと、僕は先生の顔だけはなんといいっても見たくてしかたがありませんでした。僕が行かなかつたら先生は屹度悲しく思われるに違いない。もう一度先生のやさしい眼で見られたい。ただその一事があるばかりで僕は学校の門をくぐりました。

問一 —— ①とありますが、なぜですか。もつともふさわしくないものをア～ウから選び、記号で答えなさい。

ア ジムの絵具を盗んでしまったことを深く反省しているから。
イ お腹がすいていない上、葡萄がそれほど好きではないから。
ウ 大好きな先生を苦しめたかと思うととても申し訳ないから。

問二 (2) が二か所ありますが、同じ言葉が入ります。(2) にあてはまる言葉としてふさわしいものをア～ウから選び、記号で答えなさい。

ア そして イ だから ウ では

問三 (3) が二か所ありますが、同じ言葉が入ります。(3) にあてはまる言葉としてふさわしいものをア～ウから選び、記号で答えなさい。

ア また イ けれども ウ なぜなら

問四 —— ④とありますが、なぜですか。もつともふさわしいものをア～ウから選び、記号で答えなさい。

ア 学校を休む正当な理由になるから。
イ 先生に心配してもらいたいから。
ウ お見舞いに絵具をもらえるから。

問五 (5) にあてはまる言葉としてもつともふさわしいものをア～ウから選び、記号で答えなさい。

ア さっさつ イ ずんずん ウ ぶらぶら

問六 —— ⑥とありますが、その内容を次のようにまとめました。空らんにあてはまる言葉をそれぞれ文中から探し、書きぬきなさい。

明日はどんなことがあっても、先生は僕に (ア) に来てほしいと思っている。もしも僕が来なかったら、先生はきつと (イ) 思うだろう。

そうしたらどうでしょう、先ず第一に待ち切っていたようにジムが飛んで来て、僕の手を握ってくれました。そして昨日のことなんか忘れてしまったように、親切に僕の手をひいて①どぎまぎしている僕を先生の部屋に連れて行くのです。僕はなんだか訳がわかりませんでした。学校に行ったらみんなが遠くの方から僕を見て「見る泥棒の嘘つきの日本人が来た」とでも悪口をいうだろうと思っていたのにこんな風にされると②気味が悪い程でした。

二人の足音を聞きつけてか、先生はジムがノックしない前に、戸を開けて下さいました。二人は部屋の中に這入りました。

「ジム、あなたはいい子、よく私 の言ったことがわかってくれましたね。ジムはもうあなたからあやまって貰わなくてもいいと言っています。二人は今からいいお友達になればそれでいいんです。二人とも上手に握手をなさい。」と先生はにこにこしながら僕達を向い合せました。僕はでもあんまり勝手過ぎるようでもじもじしていますと、ジムは③いそいそとぶら下げている僕の手を引張り出して堅く握ってくれました。僕はもうなんといいってこの嬉しさを表せばいいのかわらないで、唯恥しく笑う外ありませんでした。ジムも気持よさそうに、笑顔をしていました。先生はにこにこしながら僕に、

「昨日の葡萄はおいしかったの。」と問われました。④僕は顔を真赤にして「ええ」と白状するより仕方がありませんでした。

「そんなら又あげましょうね。」

そういって、先生は真白なリンネルの着物につつまれた体を窓からのび出させて、葡萄の一房をもぎ取って、真白い左の手の上に粉のふいた紫色の房を乗せて、細長い銀色の鉢で真中からぶつりと二つに切って、ジムと僕とに下さいました。⑤真白い手の平に紫色の葡萄の粒が重って乗っていたその美しさを僕は今でもはつきりと思い出すことが出来ます。

僕はその時から前より少しいい子になり、少し⑥はにかみ屋でなくなったようです。

それにしても僕の大好きなあおい先生はどこに行かれたでしょう。もう二度とは遇えないと知りながら、僕は今でもあの先生がいたらなあと思います。秋になるといつでも葡萄の房は紫色に色づいて美しく粉をふきますけれども、それを受けた大理石のような白い美しい手はどこにも見つかりません。

問一 ― ①とありますが、どういうことですか。もっともふさわしくないものをア～ウから選び、記号で答えなさい。

ア あわてること。

イ ときめくこと。

ウ うろたえること。

問二 ― ②とありますが、「僕」が「気味が悪い」と感じた理由を次のようにまとめました。

(ア) (イ) にあてはまる言葉をそれぞれ文中から探し、二字で書きぬきなさい。

学校に行けばみんなに (ア) を言われると思っていたのに、(イ) が飛んできて僕の手を握ってくれたから。

問三 ― ③とありますが、どういう様子ですか。もっともふさわしいものをア～ウから選び、

記号で答えなさい。

ア 急いでいる様子。

イ しかたがない様子。

ウ 心がはずむ様子。

問四 ― ④とありますが、なぜですか。もっともふさわしいものをア～ウから選び、記号で答えなさい。

ア 悪いことをした後なのに、葡萄がおいしかったと言うのは恥ずかしいから。

イ 思い出しただけで興奮してしまうほど、昨日の葡萄がおいしかったから。

ウ 先生もジムも本当は自分を許していないだろうと思うとくやしきから。

問五 ― ⑤とありますが、だれの「手の平」ですか。もっともふさわしいものをア～ウから選び、記号で答えなさい。

ア 僕 イ ジム ウ 先生

問六 ― ⑥とありますが、どういう性格ですか。もっともふさわしいものをア～ウから選び、記号で答えなさい。

ア 恥ずかしがりな性格。

イ がまんづよい性格。

ウ わがままな性格。

解答

1

問一 イ

問二 ジム

問三 ア

問四 イ

問五 イ

問六 ア

2

問一 秋

問二 イ

問三 ア

問四 4 エ 5 イ

問五 ジムの卓

問六 ウ

3

問一 ウ

問二 ア

問三 イ

問四 ジムの絵具

問五 ア

問六 二(つ)

4

問一 ウ

問二 ア

問三 イウ

問四 ア

問五 イ

問六 イ

5

問一 ア

問二 イ

問三 ウ

問四 ア

問五 二階

問六 教場

6

問一 イ

問二 ア

問三 イ

問四 ア

問五 ウ

問六 ア学校 イ悲しく

7

問一 イ

問二 ア悪口 イジム

問三 ウ

問四 ア

問五 ウ

問六 ア

- 1 問一 直前に「岸に立って」とありますから、海の上に見える風景を指しています。
- 問四 直前に「下手な絵」が「美しく見える」とあるので、実際には絵が上手なわけはありません。
- 2 問一 「葡萄」が秋の果物であることは知っておいてほしいところですが、「冬が来る前」という表現があるので「秋」とわかります。
- 問三 「あの日本人が僕の絵具を取るにちがいない」という部分から、ジムが僕を疑っているという内容が読み取れます。
- 3 問六 僕が取ったのは「藍と洋紅の二色」です。
- 4 問三 「あんなことをくしました。」までが「後悔」、「もう僕は駄目だ」が「絶望」です。
- 問五 「またとない」は「二度とない」という意味です。「この時ほどいやだと思ったことはこの先二度となかった」ということです。
- 5 問三 直後に「返したことをしつかり先生に知ってもらいたいので深々と頷いて」とあります。
- 問四 一つ前の先生の台詞に、「あなたは自分のしたことをいやなことだったと思っていますか」とあります。
- 6 問五 直前に「いやいやながら家を出ました」とあります。気の進まない歩き方はウしかありません。
- 7 問三 アと間違えやすい問題ですが、この場面ではジムが急ぐ必要はありません。
- 問四 直前に「唯^{ただ}恥しく笑^{ほか}う外ありませんでした」とあります。さらに、ジムの絵具を取った直後に葡萄をおいしく食べたというのには図々しいことだと考えられます。